



「 3つ目の耳を澄ます 」

『 3つ目の耳を持ち、彼ら（患者たち）が言っていることでなく、言わないでいること（言えないでいること）を聴きなさい 』

朝日新聞 鷺田清一さんのコラム「折々のことば」で紹介された緩和ケアナース ジョアンさんのことばです。「語るのが辛い」ことがらに対してこそ、援助職は3つ目の耳を澄まして想像を働かせて受け止め、患者さんの死や生を支える必要があると書かれており、私はドキッとしました。

果たして、私に3つ目の耳はあるだろうか・・・？患者さんの状況に想いを馳せ、理解を深め、その意思を活かせるようアドボケイト、エンパワーメントしていくことが、ソーシャルワーカーには求められています。しかし多忙を極める業務のなかで、それを実践していくことの難しさも同時に感じており、日々の悩みでもあります。

来年6月に日本医療社会福祉協会全国大会が川崎市コンベンションセンターで開催されます。地元での開催は滅多にないので、私もプロジェクトチームの協力員として参加させていただき、上記のようなソーシャルワーカーとしてのジレンマについて考えを深めてみたいと思いました。

例年の大会は、そこに集う沢山のソーシャルワーカー仲間と情報交換をしたり、研究成果を共有したり、交流をすることで、エンパワーメントし合える、そんな素敵な

場だと思っています。

何よりも、参加することで、「元気がもらえます！」。孤独を感じておられる一人ワーカーの方、院内スタッフにソーシャルワークが理解されず落ち込んでいらっしゃる方、私のように自分の仕事の現実に悩

んで行き詰まりそうな方…etc. 全国から沢山お集まりいただいて、悩みや課題を語り合い、知恵を絞り合う中から、あらたに湧いてくる「元気」を実感していただきたいと考えています。

神奈川大会のテーマは『ともに生きる～みらいのソーシャルワークの風をつくる』。これは「ともに生きる社会かながわ憲章」にも通ずるテーマです。差別や偏見を排除して、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現しようとの思いが込められています。私たちソーシャルワーカーが自己研鑽、切磋琢磨して、専門性を発揮することで、多様性を認め合う地域社会作りに参画できると考えます。そのためにもぜひ協力し合って大会を成功させましょう！



宇田川 伊津子

神奈川デッサンクイズ④ 「さて？ここはどこでしょう？」



正解は・・・「江の島」

江の島には、日本三大弁財天の一つが祀られている江島神社、江の島シーキャンドル(展望灯台)、江の島サムエル・コッキング苑、江の島ヨットハーバー、遊覧船のほか、緑の多い山道、険しい断崖や江の島岩屋洞窟、そして、昔からの歴史が詰まった街と人情があります。

新鮮な魚介類を味わえることも江の島の魅力。獲れたてのしらすが生でいただけます。老舗のまんじゅうや最中、海苔ようかん、新名物たこせんべいも是非どうぞ！（観光かながわNOW HPより）

「学会発表講座 I」開催報告

プロジェクトメンバー学術部会 高橋 恭子

3月19日（月）19時～20時45分まで、真新しい済生会神奈川県病院の講堂をお借りして、「学会発表講座 I」を開催しました。当日は月曜日の夜にも関わらず、29名のみなさんが参加され、学会発表や研究に対する関心の高さがうかがえました。今回は第1回目ということで、はじめて発表する、または久しぶりに発表する方が、どのように研究をすすめたらよいかについて、イメージできることを目的として、講座を開催しました。

講座の内容は、おおまかな研究全体の流れをたどっていくことを、講義と演習の形で行いました。具体的には、1、研究とは何か、2、研究計画の立て方、3、研究テーマの設定、4、先行研究の検討、5、研究倫理、6、研究の方法、7、学会発表への準備、です。

研究とは、「これまでに蓄積された知識体系に意味あるものを付け加えること。まだ解決されていない問題に対して、何らかの解答や解決策を見つけ出すこと」（川口2002）です。研究テーマについて、問いをたて、その答えを導くこと、そしてその過程を表していくこととなります。そこには、何らかの新しい発見、自分のオリジナリティがあること、また合理的な仕方でも根拠づけられている、つまり適切な研究方法が用いられていることが必要です。

研究計画は、①研究テーマ、②研究の目的、③研究の動機、④研究の背景、⑤研究の意義、⑥研究の方法、⑦研究を行っていくためのメンバーや必要な時間、経費やスケジュール、⑧倫理的配慮などを考えてたてていきます。研究テーマは、研究に費やせる時間や先行研究の有無など、さまざまな制約を考慮しつつ、できるだけ範囲を狭くしながら設定します。自分自身の関心や、実践で力を入れて取り組んでいることなどから、疑問や課題を明らかにしたり、これまで取り組み例がないものや、過去の研究で残されていた課題に取り組んだり、過去の研究との比較や、ソーシャルワークの理論の検証なども研究課題になります。研究テーマを考えていくときに、概ねテーマを決めつつ、他領域の専門家や職場の同僚など、他者とのディスカッションも有意義です。



そこで講座では、みなさんが研究しようと思っているテーマを書き出してもらった後、グループでディスカッションをしました。グループではみなさんの様々な問題意識が語られていました。アンケートでも、他の参加者の関心が聞いて興味深かった、仕事やケースの取り組みに対する認識の違いを感じる機会となったなどという声がありました。

研究の問いは、研究によって何を明らかにしたいか、疑問文で表すことをお勧めします。疑問文で問いかけられると、人間の脳はその答えを探そうとする働きをします。

そして先行研究の検討が研究を行う上で必須です。自分が考えることは、先人もすでに考えていることが多いので、全く同じことを研究しないように、ぜひこれまでの研究成果を確認し、自分の研究のオリジナリティ、価値を明確にして、研究に取り組んで下さい。文献検索のためのインターネットサイトは研究内容によって多様ですし、インターネット上だけでは足りない場合もありますが、CiNii、Google scholar、医中誌Web、メディカルオンライン、国立国会図書館、MEDLINEなどがあります。キーワードを考えて、系統的に文献検索を行います。

文献検索をしたら、自分の研究課題に合わせた文献検討を行います。文献一覧を作成し、必要な文献を読み、文献クリティークを行います。クリティークは、文献の目的や方法、結果、考察などをクリティカルな視点で読み、文献全体の評価を行います。自分自身の研究にどのように関係するかを考えつつ、文献検討を行います。ここまでくると自分の行う研究の方向性が明確になっていくことと思います。また、研究をする上では、研究倫理に対する配慮が欠かせませんが、第4回のニューズペーパーの「私達の学会発表講座その③」で赤澤先生が執筆されていますので、そちらをぜひご覧ください。

研究テーマが決まったら研究の方法を検討します。文献研究、質的研究、量的研究、歴史研究などさまざまな方法がありますし、ミックスした研究もあります。

どのようにデータを収集し、分析するか、研究方法はその目的や対象、費やせる時間や予算、データの内容や、自分の能力の限界も考慮しつつ、方法を選択します。

研究方法を選択し、研究を実施した後、その結果をまとめて考察を行います。そして、研究の問いとその答えが結びつくようにまとめていきます。

最後に学会発表への準備となります。早めにスケジュールをたて、口頭発表なのかポスター発表なのか発表方法を考えます（学会によっては、ポスター発表は行わない場合もあります）。発表の抄録は規定に沿って作成し、当日の発表は聞いている人の立場にたって草稿を作成します。学会発表は直接、その場の聴衆と対話ができる貴重な機会です。

みなさんの感想からは、スケジュールをたてて流れに沿って行えば形になりそうだと思えたといった声や、具体的に研究の

方法を知りたいといった声などが聞かれました。今回は研究方法や学会発表への準備については、時間の関係上、具体的な説明ができませんでしたので、次の講座の機会につなげていきたいと思います。

研究発表は難しいことではありません。ぜひ、みなさんの持つ

研究の種を大切に、公の場で発表しましょう。

みなさんの研究成果が明日の医療ソーシャルワークの進展につながります！

〈文献〉川口孝泰（2002）『看護研究ガイドマップ』医学書院



大会テーマとつなげて、SWの未来を考えられる企画を検討中

2018/3/14

私達は全体プログラム部会です。大会テーマ「ともに生きる～みらいのソーシャルワークの風をつくる～」に沿って、3日間の全体の構成についての話し合いを始めました。

全体プログラム部会は、メンバー：佐々木麻里（横浜市立脳卒中神経脊椎センター）、左右

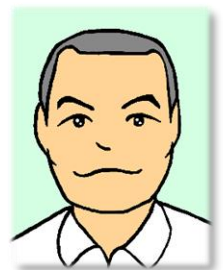
田哲（北里大学病院）、富永千晶（賛育会病院）、成田すみれ（いきいき福祉会）、藤田寛（横浜労災病院）と協力員：菊池まどか（県立がんセンター）、斉藤正和（相模原中央病院）、渋谷麻美（新横浜リハビリテーション病院）、半沢英明（鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院）により組織されています。（五十音順、敬称略）

1回目のミーティングでは、①3日間のプログラム構成、②講演（基調講演／記念講演等）講師の候補、③神奈川からの企画内容等について話し合いました。

具体的な内容については日本協会理事

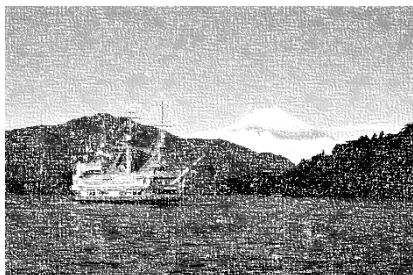
会の意見を伺いながら相談を進めなければなりません。可能な限り「神奈川らしさ」をちりばめた企画を考えていきたいと思っています。また、神奈川のSWは全国に先駆けて様々な取り組みをしてきており、人材も豊富なので、神奈川活躍中もしくは神奈川ゆかりの人や組織をぜひとも活かした企画を考えたいと思っています。

始動したばかりですので、まだまだ一緒に考えてくれる方を募集中です。あなたもお近くのメンバーや協力員にお声掛けください。お待ちしております。



藤田 寛

神奈川デッサンクイズ⑤ 「さて？ここはどこでしょう？」



答えは次号で！

皆様、連休はいかが過ごされましたか？プロモーション部メンバーは横須賀、三浦、横浜中華街、小田原、川崎大師など神奈川の名所撮影に飛び回っておりました。

今回は3月17日に開催されました第6回全体会議のご報告をさせていただきます。今回は日本医療社会福祉協会（以下日本協会）との合同会議となり日本協会から木川理



事、藤田理事がご参加下さいました。

昨年9月から始動したみらいプロジェクトの目標、準備状況、各部の活動報告を行い情報共有を図りました。

今後は日本協会との全国大会チームも発足し、記念講演やシンポジウムのテーマなど詳細を詰めていくこととなります。次回の日本協会との合同会議は8月を予定しております。

みらいプロジェクトからの報告になりますが、学部は3月19日に第1回学会発表講座を開催し30名の方が参加して

また、プロモーション部では神奈川の名所撮影や研修会などにお邪魔して撮影をさせていただいております。今回写真でご紹介しました「カモメ隊長」と共に撮影しております。

大会会場である「川崎市コンベンションホール」が4月16日にオープンいたしました。ホール内には有名なコーヒョップや美味しいベーカリーなどもオープンしましたよ。

めまぐるしい変化が続けている武蔵小杉を皆様、どうぞご期待下さい！！

報告者：上原嘉子



プロモーションビデオ作成！

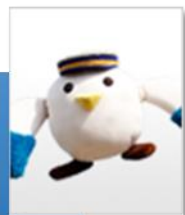
プロモーション部では、神奈川県魅力をひろく伝えることで、ひとりでも多くの方に「かながわ大会」に参加してもらえるよう、プロモーションビデオの作成を行いました。

主人公は、静岡県伊東市「道の駅マリンタウン」の公式キャラクター「カモメ隊長」。神奈川県に遊びに来て、いろんな神奈川の見どころを発見しちゃうというストーリーです。

キャラクター使用の許可も得て、香川大会でも披露しました。今後は、youtubeでの放映を目指しています。

カモメ隊長

出身：静岡県伊東市
誕生日：7月15日
特技：バランスをとること
好きな食べ物：みかん、お茶



カモメ隊長の旅路



【編集・発行】